

## 令和5年度山梨大学卒業式・修了式 式辞

本日ここに、晴れて学位を授与された、学士771名、専攻科6名、修士258名、教職修士32名、そして博士37名の皆さん、誠におめでとうございます。山梨大学の教職員を代表して、心よりお祝いを申し上げます。

これまでの皆さんのご努力に敬意を表するとともに、皆さんを励まし支えてこられたご家族や関係者の皆様にも、お祝いと感謝の気持ちをお伝えしたいと思います。

感染拡大が続いていた新型コロナウイルス感染症が、昨年5月より感染症法上の位置づけが5類に変更されたことで、ようやく以前の日常生活を取り戻すことができました。コロナ禍で学生生活を送ってきた皆さんの中には、行動制限により、思い描いていたような学生生活が送れずに今日を迎えられた方もいることと思います。

本来の大学とは、学生が講義や実験・実習の場で学びを深め、休み時間やサークル活動で仲間とたくさん語り合い、課外の活動に熱中することのできる場所です。これらの活動が制限されたことは、皆さんにとって大変辛く厳しいものであったことと思います。私も、この苦難の数年間をともに大学で過ごし、その日常を見続けた者として、言葉にできない辛さを経験しました。皆さんはこの間、孤独や不安といった感情に向き合い、様々な経験をしてきました。私は、その経験を「苦痛」や「失望」という評価で結論付けたいと欲していると考えています。皆さんが過ごした一日一日が、これからの人生で大切な意味を成すときが必ずやって来ます。コロナ禍での経験をネガティブに捉えず、苦しい学生生活をやりきったことを誇りとして、自信をもって今後の人生を切り開いていただきたいと心から願っております。

さて、これまでのコロナ禍の行動制限によって、日本のみならず世界中の教育システムに多くの変化がもたらされ、リモート学習やオンライン授業が急速に普及し、さまざまな技術が発展しました。その環境下で、皆さんはデジタル化された学びやオンラインによる遠隔地との瞬時の接続に対する順応力など、平穏な時代では得られなかった力強い能力を獲得したと思います。

本学でもDXやAIといった先端デジタル技術を活用し、学修面、生活面、及び進路面でのサポートに力を入れているところです。昨年、皆さんに向けて、「ChatGPT等のAI対話サービスの利用について」の学長メッセージを発出し、AI対話サービスなどの新しい技術を拒絶することなく、効果的・倫理的・適切に利用して、学びを深めて欲しいとお伝えしました。私もAI対話サービスを利用して、何かについて尋ねると、気の利いた答えを返してくれ、人と対話するように、コミュニケーションをとることができます。ただ、問いに対して常に正しい回答をするわけではないので、その正当性を判断するためには対話内容に関する知識と批判的思考力が欠かせません。回答を盲信せず、信頼できる情報源で確認し、適切に引用しながら自分の言葉で説明する力が大切なのです。

ますますデジタル化されていく社会で、その技術を学び、身に付けることはもちろん大切ですが、もっと大切なことは、その技術を扱う人間の能力です。時代が進めば進むほど、大切になるのは、私たちの思考、判断する力であるということ覚えていてください。

これから皆さんは、社会に出て働いたり、進学して研究者の道を目指したりと、それぞれの道を進み、新たな環境で新しい生活が始まります。その環境には、学生時代に経験した以上に様々な解決すべき課

題が山積しており、今まで以上に厳しい環境に身を投じることになるでしょう。

少し視点を広げてみますと、私たちの暮らす世界には、地政学的な紛争、エネルギー危機、気候変動、貧困、社会的不平等など、多くの地球規模の課題が存在します。これらの課題の克服は簡単なことではありません。そして課題の解決には長い年月を要することと考えます。

私は、本日、学位記を授与された皆さんに、社会の要請をしっかりと受け止め、真正面から挑戦し、社会に必要とされる人になって欲しいと願っています。また、自らがどのような目標に向かって進むべきかを考え、その目標に向かって主体的に行動できる人間力を、是非とも身に付けてほしいと考えます。

学位記の授与は、到達点ではなく、新たな出発点です。これまで山梨大学において培われた力を遺憾なく発揮されて活躍されることを心より期待し、そして応援いたします。

最後に、皆さんと同様に山梨大学を卒業し、ノーベル医学・生理学賞を受賞された、大村智先生から教えていただいた、『至誠惻怛』という言葉をご紹介します。

『至誠惻怛』の「至誠」とは、極めて誠実なこと、まごころを、「惻怛」とは、痛み悲しむ心を意味し、まごころと痛み悲しむ心があればやさしくなれる。誠を尽くし、いつくしみをもって接するという心を持たれば、物事をうまく運ぶことができるという意味です。

私は「誠意をもって人に尽くし、人の心を慮り、人の痛みを知ることによって、世の中を良くすることができる。そしてそのことが自分自身の生きざまとなる。」と解釈しており、「人と関わる」にあたって、とても大切にしている言葉です。

本来、「人と関わる」ということは、「仲良くする」「いい関係になる」ということではなく、「自分は苦しくても、その人には幸せになってもらいたい」「自分は辛くても、その人には素敵な人生を送ってもらいたい」ということです。

私は、皆さんが、周りの人々を自分自身の心の中に住まわせて、そっと包み込む、そんな「生き方」をしてほしいと強く願っています。

今年も卒業生の中に世界11カ国から来られた70名の留学生がいます。言葉はもちろんのこと、文化や習慣など、様々な面で大きく異なる環境下で修学することは大変困難であったろうと思います。それを乗り越えて本日を迎えられた皆さんを称え、英語でメッセージを送ります。

I would like to make a n address in English for the 70 international students attending today.

Congratulations to all of you who are graduating or receiving your degrees. On behalf of the faculty and staff of the University of Yamanashi,

I offer my deepest respect for your efforts so far and heartfelt congratulations on your achievements. I would also like to express congratulations to your families and friends who have supported you.

Each one of you has left your homeland and overcome the barriers of different languages, cultures, and

customs to complete your studies at the University of Yamanashi.

I am sure that COVID-19 pandemic has changed life significantly for you and your families.

Indeed, the road to today must have been extremely difficult.

Despite these circumstances, you have overcome the hardships and have grown significantly through your daily academic studies.

As proof of that, you were awarded degrees today.

From now on, you will depart for various places in society.

Graduating or receiving your degrees is not a destination but a new beginning.

We sincerely hope that you will make full use of the skills you have cultivated during your time at the University of Yamanashi.

We will support you and wish you all the best in your future endeavors.

Once again, I would like to congratulate you on your graduation and the conferral of your degrees.

結びに、本日、ご卒業・修了される皆さんが、現代の大きな変革の時代において、自分の人生を自分で切り開くという志を持ち、周りの人の気持ちを慮りながら、ここ山梨大学から世界に羽ばたき、大いに活躍されることを心から祈念して、私の式辞といたします。

本日は、誠におめでとうございます。

令和6年3月22日  
国立大学法人山梨大学  
学長 中村 和彦